

～自然と環境の保全は足元から～ 特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ

おいしいOEC ニュースレター

Vol.22
2014年6月発行

【コラム】マングローブのつぶやき～その5～

五感で観察できる

木道に行ってみよう！

マングローブ湿地を五感で観察できる木道や、直接その林床を歩いて体験できる学習の場が、県内の随所にできました。那覇や豊見城を流れる国場・饒波川と金武町億首川の河口マングローブについては、今から16年前(1998年)、琉球大学農学部に事務所を置く国際マングローブ生態系協会(ISME)が、タイやシンガポールの現地調査の結果に基づき木道の設置を提案しました。また、その後から当クラブ(OEC)は、国場川河口域の漫湖河岸や公園内にバックマングローブと呼ばれるサガリバナやサキシマスオウノキ、希少種のナハキハギなどを用いて緑化活動を継続してきました。特に国場・饒波川河口域では、総延長260mの木道が完成・実現したことにより、夜の開花がライトアップできるまでにサガリバナが成長したこと、この地域が自然と環境を学ぶ場としてほぼ整



漫湖水鳥・湿地センターの木道



宮古島・川満ウブカーマングローブ

備されてきたと、実感できます。

木道からは、マングローブ湿地を①観る、②嗅ぐ、③聴く、④触る、⑤味わうなど、干潮や満潮でその時の潮位に合った体験ができるのです。木道を入ると、まず、マングローブの落ち葉などが腐っていく独特(還元)の臭いが鼻を突き、耳を澄ますと鳥のさえずりと、カニやシャコの爪音が聞こえ、支柱や板、膝を曲げ、鉛筆を立てたように奇妙な形をした根、魚の目をいっぱい付けたような木肌の木々、そしてオキナワアナジャコの巣が目に入ります。木々の木

肌を触ったり、垂れ下がったヒルギの葉を手に取り、かじったり、葉の裏をなめたりすると、「渋い、しゃばい」と味がするでしょう。

沖縄本島の慶佐次川、漢那ダム下、億首川、うるま市崎のマングローブテラス、国場川・饒波川、佐敷の富祖崎、宮古島の川満漁港や島尻マングローブ、石垣島の名蔵川、吹通川、宮良川、そして西表島すべての川で、五感を使って観察ができます。お近くのマングローブ湿地へ、出かけてみてはいかがでしょうか。

(会長 下地邦輝)

OECがめざす国場川河口域を拠点とした沖縄の水環境教育推進体制づくり

おきなわ環境クラブ(OEC)は「環境教育」が最善の水環境保全策と考え、1999年の創立以来、沖縄本島中南部と宮古島において様々な形で環境教育を取り組んできました。しかし、これまでにはプログラムを日常的に提供する体制が十分ではありませんでした。そこで、今年度から、河川整備基金の助成金を受けて『国場川河口域を拠点とする沖縄の水環境

教育推進体制づくり事業』を実施することになりました。

この事業では、水環境教育の①プログラムと教材についてニーズを分析し、次に②「水環境ガイド」を養成し、③日常的にプログラムを提供できる体制づくりをおこないたいと考えています。

①の現状解析では、県内外の干潟やマングローブなどのフィールドを現地調査します。②の「水環境ガイド」養成コースでは、現在ガイドとして活動している方々を中心に希望者を募り、漫湖水鳥・湿地センターとその周辺で実施する環境教育プログラムの実施者としてのトレーニングを行う予定です。③の体制づくりについては、地域や学校、旅行客

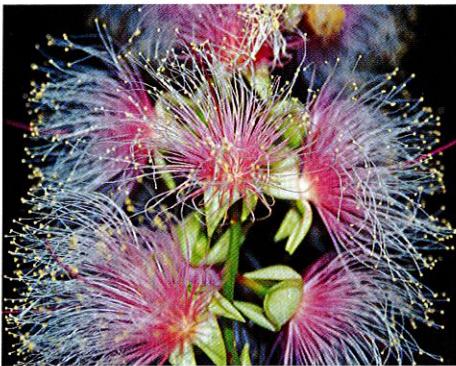
の受け入れ窓口を整備し、多様なプログラムや教材を企画・開発の後、積極的にプロモーションを図り、養成したガイドの実践の場を創り出す計画です。

この事業は、国内チームで定めた3年目標(4ページ参照)の「国場川河口域モデルに沖縄における水環境教育システムを構築する」ための足がかりとなる大切な活動です。意欲にあふれたガイドの活躍の場を創り出せるように、プログラムと教材の多様化と営業活動に力を入れる必要性を強く感じています。

(事務局長 立田亜由美)



サガリバナ観賞会に向けて



夏の夜に咲くサガリバナの魅力に、人も生き物も引き寄せられます

梅雨が明ける6月下旬、沖縄では本格的な夏が到来し、それ待っていたかのようにサガリバナは一斉に開花します。サガリバナは川沿いの湿地に自生し、夏の夜、つぼみを房状に下げる白やピンクの一晩限りの花を次々と咲かせる小高木です。昔、那覇市首里ではこの木を「キーフジ」と呼び、王様が庭木として重宝していたそうです。咲き終わって朝に音を立てて散る花(おしゃべ)が、水面に浮かんで川を流れる姿は優雅で美しく、幻想的な風景です。サガリバナの開花は、沖縄で「夏の夜の花見」として昔から親しまれてきました。

当クラブ(OEC)は、サガリバナをライトアップして、夜の観賞会を平成11年から毎年開催しています。夜の観賞会は、ライトアップされた幻想的な花の美しさを観賞するのと合わせ、水辺の自然や環境を考えていたことを目的としています。

これまで、沖縄県庁中庭や国場の民

家、首里崎山町瑞泉(馬場)通りなど、那覇市三か所でライトアップによる夜の観賞会を開催してきました。県庁中庭での開催は、台風による倒木のため現在は行われていません。国場民家の観賞会では、ガイドによる地域の概要や水辺植物・サガリバナの解説を聞きながら近隣を歩き、最後に民家の庭でライトアップされた大きなサガリバナを、家主さんから解説してもらいながら観賞しました。この観賞会は、毎回50名の定員をオーバーする盛況ぶりで、サガリバナへの関心の高さが伺えました。那覇市首里崎山町自治会と共同で開催した昨年の観賞会には、2日間で延べ650名の参加がありました。近隣の方々を中心に、遠くは糸満市や県外からの観光客まで、多くの方々が足を運んで下さり、夜の花見とミニコンサート、そしてぶくぶく茶やひとくちサーターアンダギーの貰味など、夏の夜を大いに楽しめました。

さて、いよいよ今年もこの季節が近づい



首里崎山町では、「さがり花観賞の夕べ」というタイトルで開催し、コンサートなどの催し物もあり、活気のあるイベントとなりました

てきました。今年は、首里崎山町に国場川左岸河川敷と末吉公園内を新たに加え、三か所の開催を計画しています。国場川左岸では、OECが十数年前に植樹後、大きく成長した壮齢木10本のライトアップを始めます。末吉公園内サガリバナ並木は、地元の自治会や団体、さらに企業の協力のもと、OECの技術協力によりライトアップが実施される予定です。サガリバナの開花状況を見て、観賞会の開催日を決めホームページに掲載しますので、日時や場所についてはこちらをご覧ください。

サガリバナが満開のピークを迎える梅雨明けの頃、独特の艶やかな香りが漂う中で「夏の夜の花見」ができるのは、一年を通してこの時期しかありません。この機会に家族で出かけてみてはいかがでしょうか。

(研究員 当山昌治)



子供から年配まで幅広い年代の方が参加し、ただ観賞するだけでなく、地域の今と昔について知ってもらういい機会となりました

JICA 地域別研修 「アフリカ地域持続可能な観光開発(B)」

2月7日～21日の2週間余りの短い期間で、アフリカ11か国から15名の研修員を迎えて持続可能な観光開発について研修を実施しました。短い研修期間を有効に使うため、沖縄到着の2日後から研修を開始したので、最初の数日間は時差ぼけの眠気と闘いながらの研修となりました。週の休みも1日に抑えてのハードスケジュールで、日本・沖縄の観光に関する様々な講義と、現



守礼門の前で。観光分野は女性優位なのでしょうか。15名中男性は2名だけでした

場視察の研修旅行をギュッと詰めたコースでしたが、研修員の皆さんは集中力を切らすことなく元気に乗り切りました。

2014年度はアフリカを対象とした研修コースはなくなるので、今回の研修で一区切りとなりましたが、OECにとってもアフリカを勉強するいい機会となりました。

(事務局長 立田亜由美)

JICA 集団研修「第二回 島嶼国 水環境の保全と管理」

この研修は、島嶼国の自然・文化の保護、安全で快適な生活、産業振興の土台となる水環境の保全と管理の手法を習得することを目的に昨年開設され今年で2回目となります。今回は、太平洋・インド洋・カリブ海の8ヶ国8名を対象に、沖縄の島々における陸(流)域管理手法を軸に、水環境政策、上下水道管理、流域管理と排水規制、赤土等流出防止対策、簡易水質モニタリング手法、環境教育について学びました。ここではこれらの中から簡易水質モニタリング手法に絞って紹介します。

多くの島嶼国では第一・二次産業の規模が小さいため、流域の汚濁・汚染負荷はまだ大きな問題になっていないようです。一方で局的に農家の過剰な農薬利用による化学汚染の例や川の上流域における鉱山開発や機械部品メーカーの排水問題などがあり、下流域に与える汚濁の影響は大きい様子です。また宅地・農地開発、災害時の赤土等汚濁により原水の濁りが浄水場の能力を超え水質基準を満たせず一時的に川からの取水を停止することがあるようです。

これらの問題を抱えながらも、どの国でも島ごとの水質の監視・管理には、多くの



国場川河口域の簡易水質調査。採水をしている様子



赤土等堆積状況・簡易測定方法の実習をしている様子

労力と時間と費用が必要で、島の水質全体を把握することが非常に厳しい状況です。汚濁や汚染が実際にどの程度なのか具体的な数値データが少なく、数値結果に基づく目標設定ができないため、効果的な対策が進んでいません。

そこでこの研修では、たとえ簡易的な方法であっても水質の状態を数値化して把握することが必要であると考え、簡易水質測定項目(水温、pH、透視度、塩分、COD、硝酸態窒素、リン、アンモニウム、硬度)で測定演習をおこない、流域における啓発教育と併せて水質モニタリング体制構築への応用を検討しました。

研修終了時の評価会のコメントでは、いずれの項目も彼らの国で適用可能な方法

と理解が得られました。実際にグレナダ研修員は、帰国後、簡易水質調査を実施している様子で、流域の農家や関係者へ汚れの度合いを数値で示すことで水質改善に係る啓発活動へつながりはじめている、と聞いています。次回は細菌汚染の観点から、大腸菌群数や一般細菌数についても簡易測定方法の導入を検討しています。

なおJICA研修は、開発途上国の研修員のみならず、各協力先の組織や地域にとても水環境保全のあり方を見つめ直す場として捉えて頂き、皆さん大歓迎をして頂きました。この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

(副会長 吉田透)

JICA 地域別研修「アジア・大洋州地域 热帯・亜熱帯におけるエコツーリズム企画・運営」

エコツーリズムへの支持が世界的に高まっている中で、沖縄では2003年にエコツーリズム国際世界大会が開催されており、官民ともにエコツーリズム活動が進展継続している状況にあります。

この研修は、観光やエコツアーカーの関連機関で働いている行政・国立公園職員を対象に、アジア・大洋州地域の10カ国10名を受け入れ、4月14日から7月4日の12週間行います。自然環境・文化の保全と地域経済の活性化、この両面を保つエコツーリズムが各研修員の国や地域で振興されることを最終目標としており、そのためにエコツーリズムの企画・運営組織が抱える課題解決策を策定できるよう、研修を実施していきます。



自然体験型エコツーリズム実習
富士山北麓 洞窟の中より

座学としては、環境省や沖縄県庁などの協力を得て施策や方針について学び、琉球大学の大島先生、エコ・ロジック代表の新谷雅徳さんをはじめとした、多数の環境・観光・エコツーリズムのスペシャリストに

よる講義があります。体験実習としては、本州研修においてホールアース自然学校の田中啓介さんによる自然体験型エコツアープログラム「富士山北麓の樹海トレッキング & 洞窟探検」、沖縄本島において、平和祈念公園や北部「やんばる」地域のエコツーリズム体験実習、民家宿泊体験などを体験済みで、これからは竹富島で集落散策や民具作りなどがあります。

今回の研修員は、静かな中にも熱意を感じる方々が多く、疑問点にも一度熟考してから質問するといった具合です。プレゼンテーションが上手な人、はたまた文章作成が上手な人もいますので、お互いに切磋琢磨していくそうです。

(研究員 矢野誠)

活動一覧

■平成26年1～6月 活動実績

【地域活動】

- ① 第29、30、31回国場川ワークショップ
(2ヶ月に1回開催)
- ② イベント参加:漫湖ちゅらかーぎ作戦30
(6月21日参加予定)
- ③ 河川整備基金助成事業:環境学習事例に関する視察
- ④ 会員へ向けた大嶺海岸観察会・OEC懇親会

【国際協力】 JICA沖縄国際センター 課題別研修業務

- ① 島嶼部を活用した持続可能な観光開発
- ② 島嶼水環境の保全と管理
- ③ アフリカ地域持続可能な観光開発(B)
- ④ エコツーリズム企画・運営(アジア・大洋州地域)

■平成26年7～12月 活動予定

【地域活動】

- ① 第32、33、34回国場川ワークショップ
(2ヶ月に1回開催)
- ② サガリバナ観賞会(6月下旬～7月上旬に実施予定)
- ③ イベント出展:JICA国際協力・交流フェスティバル、
アジェンダ21県民環境フェア、国場川水あしひ
- ④ 河川整備基金助成事業:水環境ガイド養成講座実施
- ⑤ 環境教育・エコツアー受け入れ
(現在2件実施予定。随時募集)

【国際協力】 JICA沖縄国際センター 課題別研修業務

- ① エコツーリズム企画・運営(中南米地域)
- ② 島嶼国水産普及員養成

国内チームの3年間の目標

- 国場川河口域を、会員やボランティア、企業、他団体との協働により、環境学習、エコツアーのフィールドとして整備する
- 修学旅行、一般旅行客、企業CSR等に対する環境教育プログラムを開発する
- 国場川河口域の環境問題に関する議員の理解を促進し、行政・教育委員会による具体的支援を働きかける
- 地域と学校に対する環境教育プログラムを開発する
- 国場川とその流域をフィールドとし、沖縄における水環境教育システムを構築し、実践事例とする



大学生・専門学校生 夏休みインターン募集

おきなわ環境クラブでは、水辺環境の保全・啓発活動の企画・運営と一緒に実施したい人を求めてています。環境教育や水辺環境保全に興味のある方、NPOに興味のある方、成長したいと熱い思いのある方、おきなわ環境クラブで私たちと地域のため、沖縄のために活動してみませんか？夏休み前に募集予定！ホームページをチェックしてね♪

会員・ボランティア募集

都市部に残された身近な「自然環境」について目を向けてもらうことを目的に、2ヶ月に1回、国場川河川敷においてサガリバナ及び水辺植物の手入れや植樹活動、「マンゴロープガイドウォーク」などの楽しいイベントを行っています。初めて参加される方でも一緒に楽しく作業できますので、ぜひご参加下さい。お待ちしております。

特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ

自然と環境の保全は足元から！

おきなわ環境クラブ(OEC)は、水辺環境の環境保全活動をきっかけに、地域の自然保護や環境保全の気づきが広がることを目的とした、子どもと大人のNPO／NGO団体です。

〒902-0075 沖縄県那覇市国場370-107

TEL 098-833-9493

FAX 098-833-9473

E-mail kokuba@npo-oec.com

Web http://www.npo-oec.com

Facebook ページできました。
「おきなわ環境クラブ」で検索！

